

# 技術情報

長崎県病害虫防除所長

令和6年度病害虫発生予察技術情報第2号

## 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシ）の発生状況および新世代成虫の果樹園への飛来時期予測について

8月以降は、果樹カメムシ類が越冬成虫から新世代成虫に入れ替わる時期となります。

現在、新世代は主にヒノキのきゅう果上に生息し、きゅう果が餌として好適な期間はヒノキ上にとどまっていますが、吸汁によってきゅう果の劣化が進み、餌として不適となるとヒノキから離脱して果樹園へ飛来します。

現在、ヒノキ樹上の寄生虫数および、ヒノキきゅう果の着生量は平年よりやや少ない状況ですが、ヒノキきゅう果の口針鞘数は、平年よりやや多い状況です。また、ヒノキからの離脱予測日は地域によりバラつきが大きく、かなり早いと予測される地域もあるので、果樹園への飛来に注意してください。

### 記

#### 1. 発生状況について

- (1) フェロモントラップ（諫早市、西海市）における越冬世代の誘殺数は、平年並～やや少ない（図）。
- (2) 7月下旬に実施したヒノキきゅう果のビーティング調査の結果、1枝当たりの寄生虫数は1.2頭（平年 1.8頭）と平年よりやや少なかった（表1、2）。
- (3) 7月下旬に実施したヒノキきゅう果の着生状況調査の結果、県内14地点の平均着生量（指数）は2.3（平年 2.8）と平年よりやや少なかった（表2）。

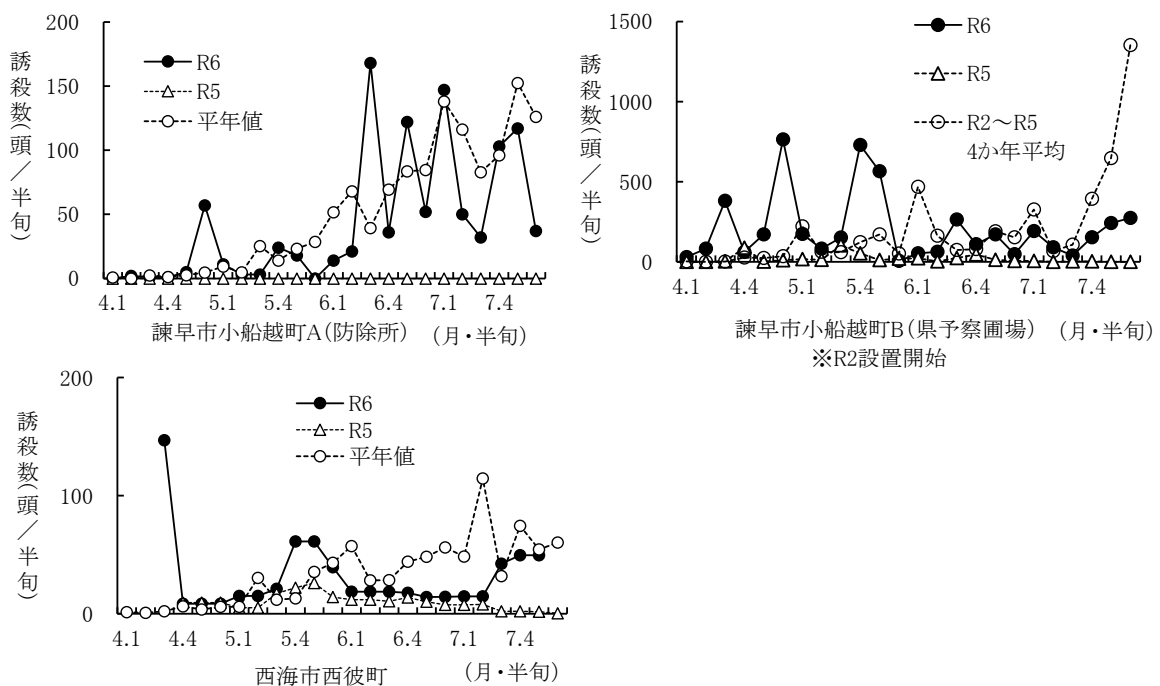


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

表1 ヒノキ樹(きゅう果着生枝)における果樹カメムシ類の寄生状況 (令和6年7月19,25,26,30日調査)

	チャバネアオカメムシ(頭/枝)					ツヤアオカメムシ(頭/枝)					合計	きゅう果着生量(指数)*
	成虫	老齡	中齡	若齡	計	成虫	老齡	中齡	若齡	計		
令和6年	0.6	0.2	0.3	0.1	1.1	0.09	0	0.01	0	0.1	1.2	2.3
平年	0.6	0.2	0.4	0.3	1.5	0.2	0.1	0.1	0	0.3	1.8	2.8

\* きゅう果着生量は、程度を5段階(多:5, やや多:4, 中:3, やや少:2, 少:1)として達観調査した

表2 果樹カメムシ類の寄生状況およびヒノキのきゅう果着生量の年次別推移

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	平年	R6
寄生虫数(頭/枝)	2.5	0.6	0.3	2.6	4.9	2.6	0.6	0.5	2.2	1.0	1.8	1.2
きゅう果着生量(指数)*	3.5	1.0	2.3	3.5	2.9	3.5	2.1	2.3	4.0	3.1	2.8	2.3

\* きゅう果着生量は、程度を5段階(多:5, やや多:4, 中:3, やや少:2, 少:1)として達観調査した

## 2. 果樹園への飛来時期について

- (1) 7月19日～30日に採集したヒノキきゅう果の口針鞘数調査の結果、調査地点の平均の口針鞘数は3.6本(平年 2.8本)と平年よりやや多い(表3、4)。
- (2) ヒノキからの離脱予測日は、全体としては平年並だが、地域によりバラつきが大きく、離脱時期がかなり早いと予測される地域もあるため、飛来時期には注意が必要である(表3、4)。

表3 ヒノキきゅう果における口針鞘数及び離脱予測日

調査地点	7月19、25、26、30日採集	
	口針鞘数(1果当たり)	離脱予測日
諫早市多良見町東園	4.1	9月2日
諫早市多良見町佐瀬	3.0	9月6日
長与町岡	2.8	9月7日
時津町西時津	2.4	9月8日
西海市西彼町小迎	5.1	8月29日
西海市西海町木場	3.4	9月4日
諫早市長田	4.4	9月6日
大村市今村	1.3	9月17日
東彼杵町赤木	4.9	8月30日
雲仙市瑞穂町伊福	9.4	8月15日
雲仙市国見町百花台	1.6	9月5日
南島原市有家町新切	0.4	9月9日
南島原市北有馬町田平名	0.8	9月8日
佐世保市宮	7.4	8月21日
佐世保市針尾	-	-
平均	3.6	9月3日

※佐世保市針尾は、調査樹の伐採およびきゅう果着生量極小のため調査できなかった。

表4 口針鞘数及び離脱予測日の年次別推移

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	平年	R6
調査日(月/日)	7/22	7/22	7/21	7/24	7/25	7/23	7/21	7/21	7/21	7/20	7/21	7/24
口針鞘数(本/果)	1.2	6.2	0.8	2.0	9.7	1.1	2.5	1.2	2.5	0.9	2.8	3.6
離脱予測日(月/日)	9/9	8/22	9/10	9/9	8/15	9/11	9/4	9/8	9/4	9/8	9/3	9/3

注1) 令和6年7月19日、25日、26日、30日に採集したきゅう果30果についての口針鞘数を数えた

注2) きゅう果は1果当たりの口針鞘数が25本以上になると餌として適さなくなり、餌不足になったカメムシはヒノキから離脱して果樹園に飛来する

注3) 予測日は予測式(福岡県農業総合試験場作成)を利用して算出した

### 3. 防除上注意すべき事項

- (1) 山林に近い園地や毎年発生を認める園地などでは、上記の予測日を目安に見回りを徹底し、カメムシ類の飛来が認められた場合には早急に防除を行う。
- (2) 飛来時期や飛来量は園地によって異なる場合があるので注意する。
- (3) 今後、高温・乾燥が続く場合、きゅう果の劣化が進み、離脱時期が早まるおそれがある。

○6月から8月までの3か月間を「農薬危害防止運動月間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室  
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス

: <https://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/nougi/JPP/index.html>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室  
(長崎県病害虫防除所) TEL : 0957-26-0027

